

# 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果より

平成30年4月17日実施 6年生51名

## 1 平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果

### (1) 自校の取組の成果

- ・「話すこと・聞くこと」に関しては、昨年度よりもやや上回った。日々の授業において、話し合い活動や、発表などの指導を、きめ細やかに行っているからであると考ええる。
- ・算数については、記述式の回答のポイントが昨年度よりも上回った。学習サポーターのきめ細やかな指導も効果を上げている。

### (2) 結果から見えてきた課題

- ・国語、算数ともに、平均正答率が県平均を下回っている。  
(国語) ← 日常行っている読み聞かせや読書活動の他にも、音読や語彙力を増やす取り組みなど、国語力向上の手立てを再検討する必要がある。
- (算数) ← 「図形」の分野においては、平均正答率が、昨年度を下回っている。また、「数と計算」、「数量関係」においても昨年度を下回っている。どの分野においてもポイントが下がっていることから、6年生は中学校へ進学する前に、復習を行う。

## 2 今後の取り組みの重点

### (1) 読書活動の改善

現在行っている朝学習の時間を活用した毎日の読書活動を引き続き行う。また、1年生～4年生の月1回の読み聞かせも継続して行っていく。しかしながら、それだけでは学力の定着としては難しい。そこで、授業の見直し、家庭学習として与える課題などの再検討を、職員研修の時間に行う。

### (2) 発展的、応用的な授業への改善

授業と関連付けた課題を家庭学習とする。このことで、家庭学習の意欲を高めると同時に学校での学習の意欲も高める。さらに、各教科において、1時間の中に基礎的な内容と応用的な内容の両方を取り入れた学習計画を立てて実践する。B問題のような負荷がかかる問題にも取り組ませ、考え方を指導していく。

### (3) 学び合う学習集団を育てる学級経営

教師と児童の人間関係づくりを前提とし、児童同士のより良い人間関係を築く学級経営を行う。学習中に多くの友だちの考えに触れ、自分の考えを広げたり、深めたりすることにつなげるために、学習中と生活のあらゆる場で、お互いの考えを認め合える人間関係を構築する。学び合う学習集団を育てることで、児童間の学力差を縮めて、集団としての学力向上を目指す。